

【解説】これは、デイヴィド・ウィルコックの最新論文 The Storm of Disclosure is About to Hit の中ほどから抜き出した、Steven Greer 博士による映画 SIRIUS を中心とした一部である。ウィルコックがこの小人 E T を取り上げるのはこれが初めてではない。DISCLOSURE: Nearly Identical ET Corpses Found in Russia and South America (Feb. 1, 2013) で、ロシアと南米で、この映画と同じ小型 E T の死骸が見つかった話を取り上げている。

映画 SIRIUS のトレーラー（予告編）は、「Sirius Steven Greer」で検索すれば、簡単に見られる。この映画はオンライン限定で、申し込めば配信されるようになっている。グリア博士の意図は、この映画を草の根運動的にどんどん広め、政府や公共メディアを待つことなく、民間レベルで「ディスクロージャー」つまり啓蒙運動を進めようということであるらしい。

ディスクロージャーの嵐が今にもやってくる（抄）

David Wilcock

April 27, 2013

DNAテストをされた地球外ヒューマノイド(類似人間)の公開が、4日続けて Huffington Post の最も大きな話題 No.1 となった。映画「シリウス」が月曜日、初公開された——これはディスクロージャーの決定的な口火となるかもしれない。



.....

これはすぐにも一般に知られるかもしれない

LIBOR が明るみに出る前に、我々はインサイダーを通じて、「同盟」の計画が、一気にではなく、徐々に確実に「大陰謀団」(the Cabal=イルミナティ)を敗退させることであることを知っていた。

まさにそのように今日まで事が運んだ。徐々にゆっくりと首の縄が絞められていった。

「大陰謀団」は大きな危機を、メディアをコントロールすることによって乗り越えることができる。このようなジャーナリストの多くはそれに反逆しているようだ——今 ICIJ (国際調査報道記者団)に見ることができるように。

私が最初そうなるだろうと聞いていた「大量逮捕」シナリオでなくて、もっとゆっくりした漸次的で組織的なアプローチが進行中である。

とはいえ、ある時点でそれは漸次的でなくなるだろう。それは巨大な雷と嵐のように急激に強く打つであろう——私の夢が予言したように (注:冒頭に夢の詳細な説明がある)。

ディスクロージャー (公的機密の公開) がこの過程の大きな要素になるだろう——これまでも多くのさまざまな夢が指し示したように。

これが一度起こるならば、それは我々にきわめて大きな影響を与え、記録された地上の人類歴史の最大の出来事と考えられるだろう。

それが起こったとき、どのように呼ばれるかは私には分からない。それは起こった後で決まるものでしかあるまい。

にもかかわらず、地球外人間の現実性と彼らから得られたいろいろな技術は、この過程の鍵的な要素になるであろう。

ディスクロージャーはもはや夢ではない

2013年4月7日、Lee Spiegel が Huffington Post に重要な意味をもつ記事を載せた。彼は、ある信じられない、世界を変えるような物語に対する、メディアの全面的な隠蔽管制

を打ち壊した最初の人となった。

懐疑論者はいつまでも、地球外生命の存在を示す「何の証拠もない」と主張している——何百人という、信ずるに足る高いレベルの警告者がおり、容易く手に入る驚くべき量のデータがあるにもかかわらず。

この馬鹿げた物語を作り上げているのは、メディアを用い操作している大陰謀団だと考えてよい。

この過程で普通の人々は、彼らの目の真ん前にあるものを否定するように教え込まれ、滑稽な、笑うべき、無関係なものとして無視するように教えられる。

今、地球外生命の実在を示す証拠は、これまでより更に有無を言わせぬものとなった。

興奮を引き起こした初公開

映画「シリウス」は、先週の月曜 2013 年 4 月 22 日、ロサンゼルス下町の Regal Cinemas Live 劇場で初公開された。多くのすぐれた映画の初公開がこの大きな劇場でなされている。

私は、この興奮させる映画を見るために、ここに押しかけた約 800 人の観衆の一人だった。これは「ディスクロージャー」過程の、決定的なひと押しの一つになる可能性のあるものだった。

私の見た尋常でない稲妻の夢は、この映画より前に見たものだった。この映画は私が見せられつつある過程の一部分のように思える。

この映画鑑賞の朝見た続きの夢は、この一つの出来事、つまり一人の E T ヒューマノイドの完全公開とその DNA テストが、全世界を変えるかもしれないことを示唆していた。

大観衆と共にこの映画を見るためにそこにいるということは、正直言って陶酔感を覚えるものだった——特に、私がこの映画の約 5 つの場面に登場することを思えば、なおさらであった。

映画製作技術は見事なものであった。場面の一つひとつがすばらしく、全体の印象は瞑想的で知的だった。そして小さな E T が断然このショーの主役だった。

連邦準備制度

「シリウス」の始めの部分で、アイゼンハワー大統領の軍産共同体に対するぎくりとする警告（注：アイゼンハワーの退任演説）を聞くと、我々は、なぜUFOの話題が秘密にされねばならなかったかの納得のいく理由が与えられる。

Ron Paul が、Ben Bernanke（バーナンキ）と対決するビデオで、特によく引用され、連邦準備制度のマネー政策がいかにか中産階級を破滅させ、ドルの価値を崩壊させたかが説明される。

これら同じインサイダー・ファミリーが LIBOR や ISDAfix を操っており、その海外口座が ICIJ によって突き止められ閉鎖されつつある。（注：これは前の部分で説明済み）

ここに書かれているように、アメリカの1%が、今その富の40%をコントロールしており、一方、国民の80%は、7%の累積総計を手に行っているだけである。



4人の騎手

重々しい声のナレーターが「4人の騎手、すなわち連邦準備銀行を所有し運営している4つの銀行家ファミリー」と言ったとき、私は間違いなく——おそらく無作法に——劇場内で大きな声で笑った。（注：「4人の騎手」は黙示録に出てくる災厄をもたらす4人）

もしあなたがそこにおいて、その最初の笑いを聞かれたのだったら、それは私だった。他の何人かが続いて笑った。

それから我々は、彼らの所有する銀行のロゴ——Bank of America, Wells Fargo, JPMorgan Chase それに Citibank——が、政府の建物の柱に描かれているのを見た。



これはちょっと伝染性のある笑いだった。しかし観客が、この「4人の騎手」が4つの最も大きい石油会社——Exxon, Chevron, Shell それに BP Amoco——をも所有していることを知ったとき、それは直ちに、もっとはっきりした大勢の溜息に変わった。



この点をもっと強調するために、石油界の大物ネルソン・ロックフェラーの、第41代アメリカ副大統領としての就任演説（1974）の様子が映し出された。



前副大統領 Dick Cheney (チェイニー) もまた、誰かが「戦争犯罪人！」と叫んだとき、「坐って黙る」ように聴衆に命じている姿が映った。



黒い予算プログラム

あらゆる金融スキャンダルとマーケット操作に加えて、膨大な額の金が、アメリカ議会に対して説明できない「黒い予算」計画に注ぎ込まれている。

これらのプログラムはしばしば、地上の生命すべてにとって完全に有害な発案に対して、資金提供をしている。

「マンハッタン計画」はこのような黒い予算計画の一つで、核兵器が初めて使われた後、知られるようになった。

ナレーターが次に語るように、「1945 から 1998 年にかけて、2 千 53 発の核爆弾の爆発がこの惑星上で実行された。アメリカがその半分以上を行った。」

ETは長い期間にわたって我々を訪問している——そしておそらくここで戦争もしている

続いて私の出るこの映画の場面の一つが来る。私はそこで、オッペンハイマーが最初の核兵器実験のとき、この地球上でこういうことが起こったのはこれが初めてではないと思う、と語ったという事実を説明している。



オッペンハイマーがこの考えに導かれたのは、「マーハーバーラタ」からであった。そこには「一千もの太陽の光を帯びた鉄の矢」が怒りに任せて使われた、と書かれている。

この兵器のもたらす効果の描写は、我々が放射線病として現在知っているものと同じである。

Ancient Aliens に私と一緒に出演した Michael Cremo は、これらのヒンドゥー聖典には Vimanas、つまり古代の宇宙船が広く現れていると論じていた。



この「ヴィマナス」の定義的な特徴は、現代のU F Oについての報告と同じである。

介入すべき時

グリア博士はここで、ひとたび我々が核爆弾を開発したとき、地球外人文明は、介入すべき必要を感じたのだという彼の信念を述べている。

この映画のもっと後で、E Tたちは我々を核兵器からこれまで護ってくれていたという、複数の高位のインサイダーからの証言に接する——飛行中のそれをパワーダウンしたり、一時的に核施設全体を閉鎖したりすることによって。

これらの地球外人たちが、我々に対して、もっと愛をもつように奨励する偉大な教師として尊敬されていたことを考えるならば、これが何か恐ろしい、悪魔的な、悪の侵略だというような考えは、証拠からして全く支持できないものだ。

私の新しい週間TVショー、Wisdom Teachings with David Wilcock で話す予定の4つのエピソードは、この点についてさらに詳細に踏み込んでいる。(リンク)

地球外人たちは「みんな悪者」なのではない

「シリウス」での私へのインタビューの更なる引用が使われていて、これら地球外人たちがさまざまな古代文化に現れ、有益な霊的教えや援助を与えていたことが説明される。

これらの文化の一つは古代日本で、そこでは「土偶」として知られる「神々」が、“アメノトリフネ” すなわち「宇宙からの飛行船」として現れた。



Atacama Humanoid

24:42 から始まって（？不詳）、スティーヴン・グリア博士は、スタンフォード大学のトップの遺伝学者たちに依頼して、チリのアタカマ砂漠で見つかったヒューマノイドの見本のDNAテストを行った。

このMRI型の像でわかるように、この生き物は普通の人間とはかなり異なって見える——しかも身長は6インチしかない。

肩と肘の関節の形に顕著な違いが見られる。眼ははるかに大きく、あごと頭もはるかに大きい。



グリアは映画の中で、この見本は「過去2年の間に我々に届いたもので、詳しくは言えないが、別の国のある研究所を運営している男性からだ」と指摘している。



この小さな存在は、我々の時間で考えて、6歳だというあらゆる遺伝子的兆候を示した。

これは膝の関節の骨から、そして次にそれを、ある特定の年齢の人間に見られると思われるものと比較することによって決定された。



このことは、この非常に小さな存在が、少なくとも我々の時間で6年間、食べたり飲んだりして生きていたことを意味する。



スタンフォード大学が戦いに加わる

この映画で最も興奮させる新しい情報は、スタンフォード大学のトップクラスの科学者たちが今、このヒューマノイドの見本の分析とDNAサンプリングとDNAテストに、成功したという事実である。(リンク)

それは生物であるという結果が出た。我々は今、主導的な世界の専門家たちから、この存在は生きた、背丈6インチの、類似人間的生物であった、という絶対的な証明を得ている。



スタンフォードの基幹細胞生物学主任 Garry Nolan 博士は、嫌がらせ、職歴毀損、あるいは暗殺の危険をすら冒しても、アタカマのヒューマノイドが何であるか、そして/または何でないかを、テストを行って突き止める意欲を見せていた。



ここにノーランの、コーネル大学卒業証書、およびスタンフォード大学から得た Ph. D. 証書が壁にかかっているのが見える。

(写真2葉略)

これはどんな知られた突然変異とも奇形とも合わない

研究の助けを求めて、ギャリー・ノーラン博士は、胎児の突然変異や奇形についての世界的な遺伝学者の一人、Ralph S. Lachman 博士に協力を依頼した。



ラクマン博士は骨格の形成異常について幅広く執筆しており、American Journal of Medical Genetics, American Journal of Obstetrics and Gynecology, Medical Genetics, Pediatric Radiology, Human Molecular Genetics などの専門的刊行物に、250 以上の論文

を発表している。

ラクマンは、文字通り骨格形成異常についての本を書いている

ノーラン博士が明らかにしているように、ラクマン博士は文字通り、子供の骨格形成異常についての本を書いている。これは、懐疑論者が「これはよくある人間の赤ん坊か、ヒト以外の霊長類にすぎない」といって攻撃するための、考えられる唯一の参考資料になるであろう。

ラクマンはカメラの前で話そうとはしなかった。しかし「シリウス」についての文書による見解を示し（リンク）、この小さな存在の多くの変則点は、大きな頭蓋冠や、通常の 12 本に対して 10 本しか肋骨がないことも含めて、いかなる知られた人間の奇形や突然変異にも合致しないと言っている。

彼はこれが地球外人間だとは言わなかった。しかし専門家の意見として、我々はこのような地上のいかなる人間をも見たことがないと言った。

決して一度も、これからも…

我々は、ノーラン博士のDNA検査によって、それは人間か人間に似たものであることを知っている。我々はそれが胎児でないことを知っている。それは少なくとも6歳なるまで成長した（リンク）。

我々はまた、これほど小さな生きた人間を、これまで、どこにも見たことがないことを知っている。説明することのできない生理学上の、あまりにも多くの変則点がある。

その上それは、その小さな背丈にも関わらず、さまざまなUFOとの接触報告で我々が見ているような存在と、見かけが非常によく似ている。

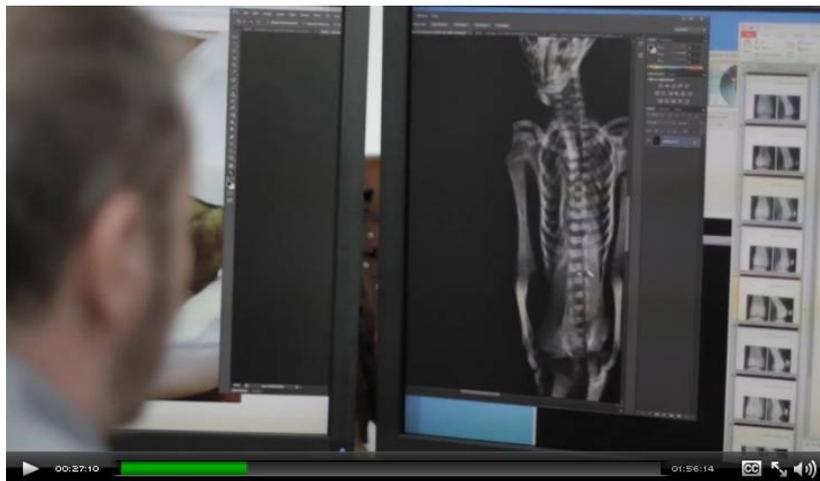
ノーラン博士は“マネー・ショット”は断った

ギャリー・ノーラン博士はDNAを調べ、その遺伝子コードに多くの変則的な特徴があるのを発見した。しかし彼は、彼をテレビ上で殺すのに用いられ兼ねない究極の“マネー・ショット”（注：映画にとって肝心の金のかかる場面）だけは断った。

実を言えば、ノーラン博士は、この存在について言いたいことが沢山あるのだが、この時

点ではまだ言えないのだ、とはっきり言っている。

この存在が通常の間人とは非常に異なって見えるのに、我々自身のDNAとあまりにも多くの相似点があることが、非常に不思議なのだと言う。



この検査結果はその後ますます有無を言わさぬものになった

私がこの会場で個人的にグリア博士と話したとき、DNA検査結果の遺伝子的違いは否定できないものになった——映画製作が完了した後に——ということを知った。

このことは部分的に、ノーランがDNAマップを指している映画の中で見ることができる。非常に多くの色づけされた点があり、これは通常の間人のDNAと一致しない領域を示している。

グリア博士が私に話してくれたことに加えて、私が指摘したいことは、ミトコンドリアDNAは人間の母を示唆していたが、我々は核DNAについては何も聞かなかったことである——これは父親を明らかにするであろう。

これこそまさに我々が、Lloyd Pye の同じように謎めいた“スター・チャイルド頭蓋”からのDNAテストに見たものである。

これらは——私が『根源の場の研究』で論じたように——人間と人間のDNAは一つの銀河テンプレート（鋳型）だということを究極的に理解するための、大きな一歩である。

アタカマ・ヒューマノイドの完全なDNAテストの結果が、近く報告されることが望まれ

る。グリア博士がこのとき私に洩らしてくれた特定の詳細は、非常に印象的であった。

おさらいしよう

今、世界の何人かのトップクラスの遺伝学者たちの証言を、我々は得ている――

この見本はニセモノではない。

この見本は生物である。

これは「未成熟のクモザル」(リンク)ではない。

この見本は人間のようなDNAをもっている。

このDNAは通常の人間のDNAに**完全には一致しないが**、類似している。

この見本は、通常の間人生物とは非常に明瞭な違いをもっている。

これが意味するものはきわめて深遠でありうる――もし我々が関心を持って、この物語を追求し続けるならば。

そこで問題はこうになる――

我々はこれを追跡し続けるほど、関心が持続するだろうか？

それとも我々の注意をそらすような他の出来事が起こるだろうか？

「大陰謀団」のような陰のグループが――絶望的な試みによって、ニュース・サイクルを混乱させ他所に注目させようと――こうした注意をそらす出来事を捏造することがあるだろうか？

'Sirius' Documentary Reveals DNA Test Results On Ata, The '6-Inch Alien'

By Lee Spiegel

Posted: 04/23/2013 12:16 pm EDT | Updated: 04/25/2013 12:27 pm EDT

Like 14,309 people like this.



5,051 448 107 602 3728

GET WEIRD NEWS ALERTS: Enter email SIGN UP

share tweet +1 email comment

FOLLOW: [UFO News](#), [Video](#), [6-Inch-Tall Humanoid](#), [Dr. Steven Greer](#), [Alien Life](#), [Aliens](#), [Alternative Energy Technology](#), [Atacama Desert Alien](#), [Paranormal](#), [Sirius](#), [Sirius Documentary](#), [Ufo Disclosure](#), [Unidentified Flying Objects](#), [Weird Chile](#), [Weird News](#)

The mummified remains of what looks like a 6-inch space alien has turned "Sirius" into the most eagerly awaited documentary among UFO enthusiasts.

The findings, however, might come as a disappointment.

In early publicity, filmmakers claimed the documentary would reveal that **the DNA of the creature with an oversized alien-looking head couldn't be medically classified.**

In fact, the film, which premiered Monday in Hollywood, features a scientist who concluded the little humanoid was human.

MOST POPULAR



The Truth About The '6-Inch Alien' Unveiled



Browns LB Arrested In Prostitution Sting



GOP Official Calls Teenage Labor Activist 'A Radical B*tch'



SHOCKING: Ace Of Base's Nazi Past



WATCH: The 'Deranged Sorority Email' Acted Out By Barbie



WATCH: McDonald's Burger From 1999 Almost Looks New